

代表申請者のみ

| 所属長 | 所属科長 | 事務(局/部)長 |
|-----|------|----------|
| | | |

令和4年4月1日

理事長 殿

学長 殿

令和3年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症
対策支援プロジェクト研究報告書

標記の件に関して、別紙のとおり報告いたします。

また、本研究報告の内容は、近畿大学学術情報リポジトリ（KURepo）に公開する旨、承諾いたします。

| | |
|----------|--|
| 1. カテゴリー | <input type="checkbox"/> 研究 <input checked="" type="checkbox"/> 開発・提案 / カテゴリーNo 40 |
| 2. 企画題目 | コロナ禍に負けない！持続可能な次世代の農業をみんなで考えよう！ |

研究代表者

所 属 : 附属農場

職・氏名 : 農場長・重岡 成



令和3年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症 対策支援プロジェクト研究報告書

| | |
|----------|---|
| 企画題目 | コロナ禍に負けない！持続可能な次世代の農業をみんなで考えよう！ |
| 研究者所属・氏名 | 研究代表者：重岡 成 共同研究者：佐藤明彦、伊藤仁久、志水恒介、堀川勇次、友廣教道、津本光貴、 宮原 瞳、大久保佑馬、三澤 紅、岩森明彦、浦西章生（以上、附属農場）、 細川宗孝、神崎真哉（以上、農学部）、遠藤雄一（薬学部）、松川哲也（生物理 工学部） |

1. 研究、開発・提案 目的及び内容

本課題は、次世代のスマート農業や食と環境に関する諸問題に関連するSDGsを学ぶことができる楽しく、有意義なイベントを行い、幅広い年齢層の参加者に対し、学びとコロナ禍におけるストレス解消の場を提供することを目的とした。このイベントの開催により、次世代の農業を担う子供たち・若年層にとって近未来の農業の魅力を知る機会となり、次世代の農業従事者の確保とともに、また子供たちの親・祖父母世代の参加者にとってwith/afterコロナの農業やSDGsについて考える契機となることが期待できる。なお、感染予防対策として参加人数を限定し、かつ事前予約制とすることとした。

2. 研究、開発・提案 経過及び成果

本課題は、自然環境に恵まれた広大なオープンフィールドを有する附属農場のもつ農と食に関する機能と人的資源を最大限に活用した、学びの場とコロナ禍におけるストレス解消を兼ね備えた「KINDAI オープンファーム 2022」（仮称）と題した約400名規模の参加型体験イベントを令和3年2月26日に開所式と同時開催予定であった。しかし、大阪をはじめ開催地である和歌山県下で、まん延防止等重点措置が適用されたことから本プロジェクト主催のイベント開催を中止した。

本イベントでは株式会社和歌山放送に一部業務を委託して、「きいてみよう！（ミニ講義）」、「みてみよう！（見学・展示）」、「やってみよう！（体験）」の3つの主要テーマを企画し、宣伝用チラシを作成した。以下、現時点までのイベントの進捗状況・成果について詳述する。

「きいてみよう！」では、以下の4テーマでミニ講義を予定していた。

① “知って役立つ！「コロナウイルスって何だろう！？」”と題して「新型コロナウイルスってなに？」「ちょっとでもコロナにかかるないようには？？」という疑問をやさしく解説（薬学部・農場兼任教員）。

② “知って得する！ おはなの世界～癒しと楽しみをお届け～”と題して、花卉の専門家がコロナ禍での癒しのひとつとして花の育て方などを解説（農学部・農場兼任教員）。

③ “知って得する！ くだものの世界～癒しと楽しみをお届け～”と題して、果樹の専門家が世界各地の味や見た目を楽しめる「くだもの」を解説（農学部・農場兼任教員）。

④ “免疫を整える食習慣って？～おいしく食べて健康に～”というテーマで、免疫力を高め、かつ美味しい食事のレシピを紹介（近畿大学奈良病院栄養部管理栄養士）。

なお、ゲスト兼進行役には本学と包括連携協定を締結している吉本興業株式会社の和歌山県在住の芸人「わんだーらんど」（地域農業に関心のある芸人）に依頼していた。

「みてみよう！」では、農場内の広大なフィールドを活用して、柑橘やマンゴーを忠実に再現した食品サンプル（イベント中止までに作製済）の展示をはじめ、「近大柑橘・近大マンゴー」の栽培ハウス（ほ場）見学、鳥目線で農場を見渡せるように「ドローン飛行デモコーナー」を開設する予定であった。また、本プロジェクトで製造した「近大せっけん」、「近大みかんジュースの搾りかすから製造したエタノール」および「近大ふりかけ」などを紹介する展示コーナーも併設する予定であった。

「やってみよう！」では、規格外の青梅を使用し、SDGs を意識しながら楽しく梅シロップを作製する予定であった。スマート農業で活躍する最新の農業機械に試乗・体験コーナーを株式会社クボタと連携して開設する予定であった。湯浅農場の柑橘遺伝資源保存園で栽培されている約140種の柑橘の中から自分好みの柑橘を見つけ、香りを比較するコーナーも開設予定であった。

作成した宣伝用チラシを地元の小・中学校などに配布し、Web とはがきで申込み受付を実施すると同時に、ホームページやニュースリリースでも URLなどを掲載・申込み受付を行う予定であった。また、和歌山放送との打合せを重ね、内容（プログラムや司会者など）や運営（人員配置や準備物など）、展示パネルや PV 動画、来場者に配布する入場券や会場マップの作成を実施していく、コロナ禍での開催を考慮し、十分な感染症対策を実施しながら開催準備を進めていた。

3. 本研究と関連した今後の研究、開発・提案 計画

本プロジェクトによるイベントは、最終的には開催中止となった。しかし、開所式は令和4年度に改めての開催となっており、本プロジェクトで準備された内容を開所式のイベントとして、最大限に活用をする。

4. 研究成果の発表等

| 発表機関名 | 種類(著書・雑誌・口頭) | 発表年月日(予定を含む) |
|-------|--------------|--------------|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

5. 研究、開発・提案 課題の成果発表等

現時点（令和4年4月1日時点）では該当する成果発表等はない。